

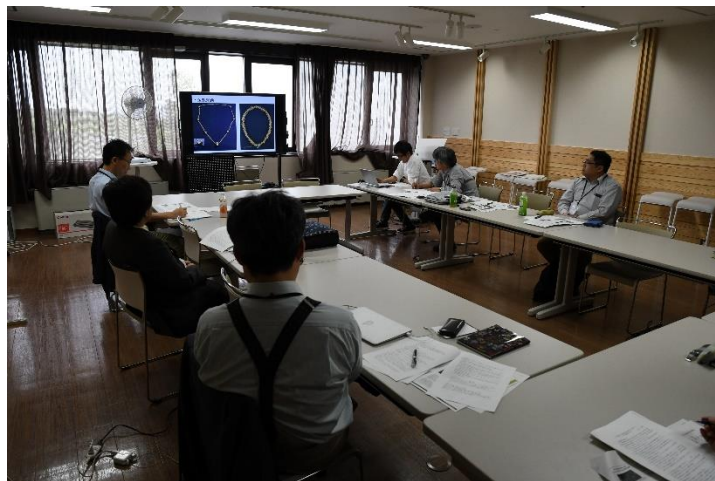
民博・歴博合同研究会（第11回月例会）

平成29年5月17日(水)に国立民族学博物館において、「北東アジアのビーズ」と題して研究会を実施いたしました。歴博から5名の参加者、民博から5名とその他1名の11名が参加しました。

午前の部では、民博40周年記念特別展「ビーズ—つなぐ・かざる・みせる」の展示場にて、本特別展実行委員長であり、かつ本拠点代表である池谷和信教授が、ビーズの素材や分布、流通経路などについて、展示品を用いて報告を行い、参加者とともに討論しました。



午後の部では、国立歴史民俗博物館の高田貫太准教授が「5、6世紀における朝鮮半島と倭のアクセサリー—金・銀・金銅製資料を中心に—」と題し、古墳に副葬されたアクセサリーを題材として、朝鮮半島の当時の情勢や社会的な身分や階層の可能性について指摘しました。また、日本における出土状況にも触れ、朝鮮半島とのつながりや衰退に関する共通性を論じました。



また、国立民族学博物館の齋藤玲子准教授が「アイヌのタマサイ（首飾り）研究の概観」と題し、タマサイの形状の分類や変遷、社会的な意味付けや価値について概観するとともに、交易に関する歴史的な変遷、また近代以降におけるコレクションや表象の対象としてのタマサイについて資料を交えながら論じました。